

[illegible]

主の祈り (93-5A)

天にまします われらの父よ
ねがわくは、み名をあがめさせたまえ
み国をきたらせたまえ
みこころの天になるごとく、地にもなされたまえ
われらの日用の糧（かて）を、今日もあたえたまえ
われらに罪をおかすものを、われらがゆるすごとく
われらの罪をもゆるしたまえ
われらをこころみにあわせず、悪よりすくいだしたまえ
国と ちからと さかえとは、かぎりなく、
なんじのものなればなり

アーメン

[illegible]

石卷榮光教會宣教基本方針

石巻栄光教会は、主なる神と出会えイエス・キリストの体です。神様が愛している一人一人のかけがえのなさを思い出し、この世界を神様が大切にしていることを思い出す場所です。石巻栄光教会は、希望を生み出します。

私たちは、この社会の現実の中で生きています。教会の中だけでの満足にとどまらず、社会に生きる人々の痛みや苦しみ、あるいは楽しみを共にしていくこと、そして、悩みや不安を分け合って喜びに変えていく教会になることを願います。

また、一人一人の生き方を尊重するとともに、神様から一人一人に与えられている賜物を活かして、神さまと人を愛し、感謝しながら地域に仕えていく教会を目指します。



みよ。わたしは、よのおわりまで、いつも、あなたがたとともにいます。マタイ 28:20

日本基督教団 石巻栄光教会

〒986-0854 石巻市大街道北2丁目12-3

電話/FAX : 0225-22-4090

振替口座：02280-8-2810 教会創立：1887年9月25日

No.2522	復活日主日 礼拝式順序	2026年4月5日
	受付 司会 献金 奏楽	礼拝当番は 礼拝堂に集まった人の中で 可能な方に担当いただきます。
前 奏		
招きの言葉	[42] ヨブ記第19章25節	司会者
讃美歌	34	一同
	子どもたちへのお話 または 悔い改めの黙祷	
讃美歌	58(1節)	一同
聖書	黙示録1章18節 (新約聖書435ページ)	
祈り		司会者
讃美歌	321 (1節)	一同
お 話	「私は死んだが、見よ」	川上直哉 牧師
讃美歌	321 (2-3節)	一同
献金		一同
報告		司会者
讃美歌	90 (4節)	一同
祝福の祈り		
後 奏		
*当教会では 着席のまま礼拝を守っています。 *旧約聖書は前半(P.1502まで)、新約聖書はその後ろです。 *献金の額はいくらでも結構です。持ち合わせがないときは次の機会に。		
∞〇∞〇∞〇∞〇∞ 公告 ∞〇∞〇∞〇∞〇∞ 2026年4月19日(日)礼拝後、礼拝堂にて、教会総会を開催します。 25年度決算・26年度予算 並びに 2027年度にて主任担任教師が任期満了となることに伴う 「招聘委員会」設置の件 等を、話し合います。		

∞∞∞∞∞∞ 今週の集会 ∞∞∞∞∞∞

☆「初心に帰って聖書を読む会(マルコ)」4月7日(火)10:30～ オンライン併用

☆「御言葉と祈りの時」4月8日(水)19:30～ オンライン併用

☆「大人の教会学校と聖餐式」4月9日(木)10:00～ 一部オンライン併用

∞∞∞ 次週の予告(4/12) ∞∞∞

☆復活後第一主日礼拝(お話:川上直哉 牧師)

[聖 書]	第一ペテロ1章3節
[お 話]	「生ける希望」
[讃美歌]	34 58 322 91 [招きの言葉] 43
受 付	
奏 楽	礼拝当番は礼拝堂に集まった人の中で可能な方に担当いただきます。

∞〇∞〇∞〇∞〇∞ お知らせ ∞〇∞〇∞〇∞〇∞

◆今後の予定は以下の通りです

- ・4月12日(日) ウクライナのイースター(14時から)
- ・4月19日(日) 教会定期総会
- ・4月25日(日) 中澤先生が10時半の礼拝を担当
- ・5月24日(日) ペンテコステ(聖霊降臨日)
- ・5月26～27日(火～水) 東北教区総会(教区センター・エマオにて)
- ・6月20日(土) 宮城北地区総会

《 先週の集会統計 》			
聖日礼拝	9人	み言葉と祈りの会	7人
早朝礼拝	4人	聖餐式	
月 定 献 金		特 別 献 金	
小杉澄子 (3月)		小杉澄子 (聖餐式感謝・会堂修理)	
席上献金	¥24,650		

週報別冊

2026年4月5日号

1. 教会宛に、以下の通信が届いています。

【日本基督教団石巻栄光教会関係】

- 「ニュースレター」（東北ヘルプ）：「イースター号」ができました。どうぞ、ご高覧ください。
- 「創立 50 周年記念礼拝・献堂式のご報告と御礼」（日本基督教団希望ヶ丘教会）：同信で同会の教会から、昨年 9 月 21 日に新会堂と駐車場整備工事を終え、「創立 50 年誌」を発刊した旨の連絡を頂きました。
- 「教団新報」（日本基督教団）：小林休牧師と片岡輝美さんと川上牧師が取材に応じた記事「東日本大震災から 15 年 神に託された世界をより良く次世代に繋いで行くために」が掲載されています。
- 「敬和」（敬和学園高等学校）：新潟の同信会関係学校からの通信です。昨年末、戦場ジャーナリストの佐藤和孝さんを招いて講演会を開催した様子が報告されています。

【日本基督教団・東北教区関係】

- 「教師検定試験のお知らせ」（日本基督教団）：5月29日（金）締め切りでの教師検定試験志願者受付の連絡を頂きました。
- 「甲状腺エコー検査 in いしのまき・じょっこ検査」（日本基督教団東北教区放射能問題支援対策室・いずみ）：「残念ながら、福島では甲状腺がん多発が確認されています」ということを受け、4月18日（土）10～15時に、石巻中央公民館で、エコー検査が行われますことのチラシを頂きました。
- 「震災ニュース」（日本基督教団兵庫教区）：「兵庫県南部大地震 記念の日」追悼礼拝の様子が報告されています。

【その他教会・団体関係】

- 「FEBC 1566」（キリスト教放送局 FEBC）：日本ルーテル教団と日本ハリストス正教会の牧師・神品の受難週・復活日メッセージ等が掲載されています。

- 「SSKU 甲斐福記」（山梨ダルク）：薬物依存症からの回復施設の通信に、甲府刑務所職員等が寄稿しておられます。
- 「岩渕まこと・由美子 ニューアルバムリリース記念コンサートのご案内と記念コンサートのご案内とお願い」（MAKOTO BOX）：7年ぶりにアルバムをリリースしたクリスチャンミュージシャンのお二人から、5月8日（金）エルパーク仙台でコンサートを開催することの連絡を頂きました。

2. 牧師動静

3月30日（月）・31日（火）

福島スタジアムツアーに帯同しました。

4月1日（水）

午前中、仙台 YMCA 入職式に参加し、午後、休暇を頂き、夜、祈祷会を主宰しました。

4月2日（木）

終日、教会でワイズメンズクラブの事務を執り、途中の午後、福島県キリスト教連絡会放射能問題学習会にオンラインで参加しました。

4月3日（金）

日中、仙台と福島市で東北ヘルプの執務をしました。

4月4日（土）

仙台 YMCA 学園の入学式に参加しました。

- 4月19日の礼拝後に行われる教会総会の資料ができました。事前にお目遠し頂き、当日にお持ち下さいますよう、お願いします。
- 4月12日の午後2時から、難民として石巻にお住まいになっておられるウクライナの方々の為の「イースター礼拝」が、石巻栄光教会で行われます。どなたでも、どうぞ、ご参加ください。

4月6日（月）

日中、福島市での「ふくしま YMCA 設立準備委員会」に出席し、夜、スピノザ読書会をオンラインで主宰します。

4月7日（火）

午前中、「初心に帰ってマルコ福音書を読む」を教会で主宰し、午後、教会で執務します。

4月8日(水)

日中、教会で執務し、夜、祈祷会を主宰します。

4月9日(木)

午前中、一件の訪問をして聖餐式を行い、午後、仙台拘置所で教誨活動をしています。

4月10日(金)

日中、教会で執務し、夜、世界食料デー仙台大会実行委員会をオンラインで主宰しています。

4月11日(土)

朝、福島市で「キッズケアパークふくしま」に参加し、午後、石巻市内での催事に参加しています。

※牧師と面会をご希望される方は、どうぞ、ご遠慮なく
教会のメール宛、ご連絡ください。上記日程を調整して、
お会いしたく存じます。



弟子の一人が、イイスス(イエス)を裏切ります。
イイススは捕らえられます。

そして他の弟子達も皆見捨てて逃げ去ってしまいます。
イイススは敵意と殺意とのあざけりのただ中に一人残されます。

イイススは不当な裁きを受けます。

しゅろの枝をもって出迎えた民衆は手のひらを返すように「イイススを殺せ」と、そう叫びます。イイススはつばを吐きかけられ、あざけられ、もてあそばれ、むち打たれ、ついに太い釘で十字架に打ち付けられます。誰も助けに来てくれません。天使の軍勢も来てくれませんでした。

ついにイイススは天を仰いで「神よ、神よ、どうして私をお見捨てになったのですか」と叫ぶばかりありませんでした。そして「すべてが終わった」と息をお引き取りになりました。十字架の足もとから見守っている母マリアの顔から一瞬にして血の気が失せ、母が卒倒するのが視界の隅をよぎったかもしれません。

私達は誰でも、このイイススのご受難に胸をえぐられます。「なんとおいたわしい」と。しかし、もしそれだけだったら、私達はイイススを理解できないでしょう。他人事ではなく「私の痛み」がここにある。「俺と同じ孤独」がここにある。それに気づかねばなりません。

私達はすでに結末を知っています。三日目の復活も知っています。けれど、一時で結構ですから、その結末は忘れてください。ひとりの男に起きることを見守ってください。そのうえで、聖使徒パウエル(パウロ)のフィリップ(フィリビ)の教会への手紙を思い出して下さい。そこには、なんと書いてあるか。

あなたがたは主にあっていつも喜びなさい。
くり返して言うが、喜びなさい。(フィリピ4:4)

2026.4 増刊号 FEBC1566

2026年4月1日 発行部数1,500部
1997年3月5日第三版印刷部数

しかし、いったい何を喜べというのでしょうか。
結末を知らなければ、何をいつも喜べというのでしょうか。

今日の福音は、ラザリ(ラザロ)の妹マリヤが、イイススの足に香油を注ぎかけ、そしてその時、その香油の香りで家が一杯になったことを伝えています。その時マリヤも当然結末は知りません。マリヤは主の死を予見して「豚りの油」として献げたのです。しかしマリヤは甘く薫る香油の香りを、自分の苦しみを理解し、分ち合ってください。主への感謝と喜びを部屋中に、そう…この世界中に満たさずにはいられなかった。

私達はハリストスの死が「死」ととどまらず、復活へと過ぎ越していったことを知っています。ハリストスの受難と死が、「死をもって死を滅ぼし」た勝利のわざだったことを知っています。私達は一週間の後、「昼よりも明るい」、復活祭の喜びの渦の中で一つになります。

そのためにです!

まず結末を忘れるべきです。
そして主の受難と死を、そのままずっと見守りましょう。あらためて「何を喜べと言うんですか」と主に聞いかけましょう。

主は必ず答えをくださるでしょう。アミン。



(文責・月刊誌編集部)

2025年9月にも
2,000 Bq/kg、最も大きくて
5,000 Bq/kgの放射
能が公園で確認されてい
る。日本では、国が指定
廃棄物として処理をする
基準は8,000 Bq/kg
以上であるが、この基準
はチェルノブイリで住
民の強制退去地域とな
る520,000 Bq/m³
と同程度。2,000 Bq/kgの数値
は、ロシアでは、「放射
線被害対策医療措置、住
民の生活レベル向上のた
めの環境保全・精神ケア
サポートが実施される
べき状況だが、空間線量
が低いことを理由に、な

かなが動いてもらえない現実があるという。

川上代表は現在、超教派の交わりが続いていることを踏まえ、「ふくしまYMC A」を立ち上げるヴィジョンを掲げ、原発事故が起こった3月15日には、福島市内の諸教会に呼びかけて福島教会で祈祷会、交流会の開催を計画している。

「東北教区放射能問題支援対策室いずみ」の働き

東北教区の働きとして、2013年から活動を開始。「保養プログラム」、「甲状腺検査」、「傾聴と訪問」を主な活動として来た。

甲状腺検査は、国がカバーしていない宮城県を中心に実施し、昨年の2月で100回を迎えた。2025年3月までの累計で、4370人に検査を行い、C判定（直ちに二次検査を要する）は0人、B判定（5.1mm以上の結節、20.1mm以上のう胞を認め、二次検査をすすめる）が83人となっている。低線量地域であっても長期的に晒されることで人体に影響が出る可能性もあり、長期的視点を持って活動を積み重ねて行くことの大切さを受け止めて励んでいる。

小林運営委員長は、帰宅困難地域に指定されている双葉町の自宅に一時帰宅したTさんに同行した時の様子を動画と共に紹介してくれた。空間線量10ミリシーベルト程

で、家に足を踏み入れると物が散乱し、洗濯物も干したままという震災直後の状態が残る。Tさんは、「津波で流された方が良かった」と本音を漏らす。「家に帰る度に、『何故、このようなことになってしまったのか』という思いが怒りと共によみがえる」と言う。アメリカの心理学者ポーリン・ボス博士が「あまいな喪失」と呼んだ「はつきりしないまま残り、解決することも、決着を見ることが不可能な喪失体験」に苦しむ人々の心の復興のために寄り添うことも課題だという。

「会津放射能情報センター」の働き

震災直後、事故被害の隠蔽と過小評価を予想した「九条の会」コアメンバーが5月、放射能から子どもをのちを守る活動を開始。7月には広く会員を募り運営する情報センターを設立。その頃ドイツEMS（福音連帯宣教会）の訪問を受け、ガイガーカウンタが提供された。また、10月には同団体の献金により食品測定器を購入し、測定を開始した。

事故直後から、国際的な原発を推進する機関に属する科学者は「このくらしい事故は問題ない」と発言。これに対して混乱していた母親たちは、大阪教区から派遣されたキリスト者の山崎知行医

師から被ばく防護の重要性を繰り返し学んだ。

2012年から12年間、新潟教会の支援を受け保養施設「にいがたはうす」を運営。春・夏休みには神戸や北海道の教会で保養プログラムを行った。現在は定期的に講演会を開催し、「子ども脱被ばく裁判」の事務局を担い、「宗教者が核燃料サイクル事業廃止を求める裁判」に参加する等、権利回復を求める活動に加わる。

福島から遠隔の地域の土壌測定にも取り組んでいる。これは311以前のデータが分からず数値の判断に苦労した経験から、近隣原発で事故が起きた際、再び同じ地点の土壌を測定し、避難や被ばく防護の判断に役立ててもらうことを目的としている。

今後の活動の展望

震災から15年が経った現状について、「廃炉作業の困難さや被害者の苦悩を置き去りにしてまるで原発事故が終わったかのように再稼働を強行する国の有り様を強く憂慮している」と3団体の代表者は述べる。川上代表は「風化という風評被害」が酷くなっていると述べ、また小林委員長は「東北教区総会では毎年のように、甲状腺検査について心配するような結果ではないとする趣旨の事実を捻じ曲げる意見がある」と述べた。

また福島県浜通りでは技術革新を目指す国家プロジェクトとして工場や研究施設の誘致が進められていること、大熊町では保育園から中学校まで一体化した学園が建てられ新しい家族が移り住んでいる実態が紹介され「煌びやかな未来構想が示されるほど原発事故への怒りや悲しみを口にしづらくなる」と指摘する。

片岡氏は、放射能の被害は、目に見えず、すぐに出て来るものではないので、事故の責任も有耶無耶にされている。だからこそ事実を伝え続ける必要があると指摘。「神に託された世界をより良く次世代に繋いでいくために、自ら調べ、学ぶ中から神に最も喜ばれる生き方を選び取っていきたい」と語る。

小林氏は、時間と共に風化することは避けられないが故に、意識的に関心を持って行くことが大切であると述べ、「報告に目を通す等、些細なことでも大事にして覚え続けて欲しい」と語る。

川上氏は、東日本大震災は、関連死と認められなくとも「遠因死」に該当するものは甚大になることを指摘し、事故で喪われた命が、間違いなく神さまの祝福の内にあったということを証することとは教会の仕事であることに触れ、「福島の教会に來て共に祈り、礼拝を捧げて欲しい」と語る。